

サビシラトリ *Limecola contabulata* (Deshayes)

【選定理由】

本種は、内湾の奥部や河口部の砂泥干潟に生息する。県内では干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は 1995 年に矢作川河口域で比較的多くの個体の生息が確認されたが、2001 年の調査では死殻も稀であった。もともと伊勢湾の愛知県側、三河湾での記録は多くないが、近年明らかに本種の生息地と個体数が減少している。本種は内湾奥、河口部汽水域の砂泥底に生息場所が限られる。深く埋もれて生息し、死亡個体もそのまま底質に埋もれているためモニタリングの難しい種である。新しい死殻の採集される海域も限られており、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



田原市汐川干潟, 2012 年 6 月 8 日, 木村妙子採集

【形態】

殻長約 70 mm で殻は楕円形で、ニッコウガイ科としては膨らみがやや強い。殻はやや薄く、白色、生きている時には殻表縁辺部は薄い殻皮に覆われる。水管は殻長の倍以上に延長し非常に長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。過去に生息が確認され、近年も生貝が確認されている場所は、庄内川河口域 (木村, 2004)、矢作川河口域、汐川干潟 (藤岡・木村, 2000) で、各生息地の個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、ロシア、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道オホーツク沿岸～九州まで分布する (山下, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は悪化しているため、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。近年死殻さえ少なくなった。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一, 2004. サビシラトリ, p.284 in: レッドデータブックなごや 2004 動物編, 368pp. 名古屋市環境局.
山下博由, 2012. サビシラトリ, p.122 in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)